

✿ 記念座談会「いにしへの技術を語る —現代の「匠」と考古学者—」の開催

飛鳥資料館では、特別展ごとに記念講演会を開催しています。春期特別展「いにしへの匠たち—ものづくりからみた飛鳥時代—」では、少し趣向を変え、考古資料の復元製作でも著名な「現代の匠」と奈良文化財研究所の考古学者が古代の技術について語り合う記念座談会「いにしへの技術を語る—現代の「匠」と考古学者—」を、5月11日(日)に開催いたしました。陶芸作家の脇田宗孝先生(奈良教育大学名誉教授)、鍍金作家の小泉武寛先生(和銅寛)の2人の現代の匠を迎え、奈文研からは松村恵司所長、玉田芳英都城発掘調査部副部長が参加しました。

座談会では、脇田先生、小泉先生より暗文土師器・施釉陶器・富本銭等の復元品の製作工程や、それにまつわる様々な工夫やエピソードが紹介されました。また、脇田先生と小泉先生の対話から、燃料を用いて温度をコントロールする方法や土をあつかう技術が重要であること等、窯業技術と鑄造技術の共通点も浮かび上がりました。松村所長からは、飛鳥池工房遺跡出土の富本銭とその鑄型や未製品の特徴とともに、小泉先生と共同研究として実施した富本銭鑄造実験の意義が述べられました。さらに土師器の暗文の施文方法をめぐり、小石を用いて復元製作をおこなった脇田先生に対し、玉田副部長からは出土した暗文土師器にはヘラ状の工具で施文した痕跡があることが指摘される等、現代の匠と考古学者の製作技術に対する意見の違いもあきらかになりました。

現代の匠と考古学者の対話は2時間近くにもおよび、多くの参加者が熱い議論に耳を傾けました。

飛鳥資料館ではこれからも、展覧会とともに、講演会や様々なイベントの開催を予定しています。どうぞご期待ください。

(飛鳥資料館 丹羽 崇史)



記念座談会の様子